

平成二十年(子年)の節目の年を迎え、本年の目標(抱負)を「改革」とし、行財政・議会意識改革に取り組む決意を致しました。

須恵町十二月定例議会(平成十九年第四回)では、最大の焦点でありました糟屋中南部六町合併協議会設置案が全員賛成で可決しました。

しかし、十二月二十一日に六町同時の一斉採決でしたが粕屋・久山、両町議会で否決に伴い白紙となりました。

残念でありませんが、その後関係六町長で再び協議がもたれ継続して六町合併を目指すことが確認されました。

当須恵町議会では、合併調査特別委員会等で慎重に議論を重ねながら、結束力・団結力により全員賛成という意義ある採決に、この三十年・五十

12月議会を終えて



藤石 豊 議長

年先の将来「子、孫の時代」を見据えた議員各位の決断に感謝を申し上げるところです。

よく須恵町には、他町に比べて人口が約二万六千人と少なく、財政力が弱いと言われています。

確かに基金(預金)も、毎年取崩し、数年先には大変な時期が訪れる状況ですが、糟屋六町どころそんなに変わりありません。財政力も大切な要因の

一つだと思いますが、須恵町には若杉山系の大自然と須恵川の清き流れ、そこで育まれてきた歴史と文化、そして人との共生は、先達が創造されてこられた大きな財産だと思っています。

誇りをもって、堂々と議論をしていきたいと思

います。今後、議会に対するご支援ご指導をお願い申し上げます。

須恵スマートインターアクセス道路促進整備

須恵スマートインターチェンジにおいては、平成十八年十月に本格導入の運びとなり、現在の利用台数は一日平均約三千四百台を超えており、十九年十一月末には四千三百台を記録し、今後のETC普及により更なる交通量の増加が予測されています。

しかしながら、それに伴う周辺の道路整備については十分とはいえず地域住民にご迷惑をおかけしており、その対策を講じなければならぬと考えています。

解決策として、高速道に並列する幹線道路が不可欠だという認識をもっており、都市計画道路の土井宇美線の早期整備を検討しました。



中嶋 裕史 町長

町長報告

しかし、住宅地等の用地買収などがあり実現するにはかなり厳しい状況であるため、西原地区のトヨタセンター用地から現在の須恵スマートインターチェンジの取付道路を結ぶ、町道須恵井尻線までの約一・一キロメートルの区間を県道として認定していただくよう、また早期の整備について、福岡県へ陳情いたしました。

県としましても、早期事業認可になるよう努力したいとのことでした。現時点では、国政における道路特定財源の暫定税率の適用期限が平成十九年度末までとなっており、期限の延長等の不透明な時期ですが、ぜひとも来年度の事業認可を目指して今後も引き続き陳情していきたいと考えています。

請願

◇新農政改革の見直しに関する請願◇

本年度より実施されている品目横断的経営安定策、農地・水・環境保全向上対策や、現在、検討されている農地政策改革は、今後のわが国の食料農業政策を大きく左右するものです。

さらに、広く一般企業の農業参入を促進する農地政策改革は、認定農業者や集落営農組織が地域の農業を担っていく本来の望ましい姿を無視するものであり、担い手への農地の利用集積と安定した経営がなし崩しになることを危惧しています。

ついでには、厳しい農業情勢の中、今後とも展望ある農業政策の確立に向け、新農業政策の見直しを請願します。

福岡県農政連粕屋支部 支部長 百済新次



田植え作業の様子

福岡県農政協議会粕屋支部支部長 百済新次

紹介議員 貝原雅俊 稲永信英 三角良人

福岡県農政連粕屋支部 支部長 百済新次

福岡県知事へ送付しました。

◇悪質商法を助長するクレジットの被害を防止するため、割賦販売法の抜本的改正を求める請願◇

国会及び経済産業省に対し、クレジット契約を利用した悪質商法被害・過剰与信被害を防止するため、割賦販売法を左記のとおり抜本的に改正するよう求める意見書を提出するよう請願します。

記

- 一、過剰与信規制の具体化
- 二、不適正与信防止義務と既払金返還責任
- 三、割賦払い要件と政令指定商品制の廃止
- 四、登録制の導入

福岡県司法書士会 会長 萩林和則

紹介議員 森 勝己 柴田真人

政府関係機関に送付しました。

議員表彰

本会議の最終日に議場において、議員表彰の伝達式が行われました。

粕屋地区議長協議会 表彰二十年 議員 森 勝己

森勝己議員は、町議会副議長として要職に就かれています。多年にわたり町議会議員として自治振興発展に貢献されたための表彰です。今後、経験を生かされて夢のある「まちづくり」「地域づくり」に尽力いただきたいと思います。



表彰を受ける森勝己議員